

細見コレクション

集う人々ー描かれた江戸のおしゃれー

Gathering-Fashionable mind in Edo Paintings from the Hosomi Collection-

集まりやお出かけのままならない今日、

作品の世界に飛び込んで人々のエネルギーを体感してみませんか。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館が続き、
作品とお客様不在の空間の寂しさを痛感した日々でしたが、ようやく再開のはこびとなり、
展覧会を皆様にご覧いただけることを心より嬉しく思います。

さまざまな時代やジャンルを象徴する作品で構成され、時に「日本美術の教科書」と称されることもある細見コレクション。

本展ではコレクションの中から、流行・文化の発信地に集う人々を描く名所遊楽図や祭礼図、葛飾北斎の肉筆画の名品「五美人図」、そして様々な身分や立場のスタイルを示す作品など、時代の先端をいく人々の美意識、往時の個性豊かなファッションが描かれた江戸時代の絵画を調度品とともに紹介します。

展示室には、これまでになく描かれた大勢の人々がおしゃれをして集結しています。集まりやお出かけのままならない今日この頃、作品の世界に飛び込んで往時の人々のエネルギーを体感してみたいかがでしょうか。

— 展覧会要綱 —

1. 展覧会名称 細見コレクション 集う人々ー描かれた江戸のおしゃれー
2. 会 期 2021年5月18日(火)～7月4日(日)※会期を変更しました
2021年6月4日(金)～8月15日(日)
3. 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 休館日 毎週月曜日
5. 入館料 一般 1,300円 学生 1,000円
6. 主催 細見美術館 京都新聞
7. 会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
<http://www.emuseum.or.jp>
8. 本展連絡先 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)
広報担当 大塚 kouhou@emuseum.or.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入館および施設のご利用にあたってはマスクをご着用ください。また、急激な状況の変化により、止むを得ず会期・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

第1章 名所に集う人々

桃山時代後期から江戸時代前期にかけて、京都をはじめとして奈良や江戸の名所や祭礼などに焦点を当てた風俗画が多く描かれました。

新名所や人気の観光スポットに繰り出す人々や、花見や芝居見物、祭りや踊りに熱中する人々の様子からは、今にも喧噪の賑わいが聞こえてきそうです。

絵を描かせた誰か、描いた絵師、そして生き生きと描かれた人々のエネルギーみなぎる絵画世界に、私たち鑑賞者も時空を超えて出かけてみませんか。



江戸名所遊楽図屏風 6曲1隻 江戸前期 細見美術館蔵

【作品解説】

大きな伽藍をみせる画面中央の浅草寺。左上には梅若丸伝説を伝える木母寺が描かれ、右上に向かって隅田川が流れている。下方には、歌舞伎小屋、人形浄瑠璃の小屋、遊郭などが連なる。古くから知られる名所と新しい遊興地を組み合わせ、新興都市江戸の活気を示そうという作者の意図が汲み取れる。明暦の大火(1657年)以前の江戸を描く屏風は少なく、極めて貴重な作例。

第2章 男の出で立ち、女の着こなし

色鮮やかで絢爛豪華な装いが主流だった江戸前期。人々が集う場所はさながらファッションショーの会場のよう。武士のフォーマルな姿や風流に興じる庶民の、華やかな色彩や模様が目をひきます。

度々の奢侈(しゃし)禁令により華美な装いなどが禁じられた江戸中期以降、男も女も格子や縞などのシンプルな柄、ベーシックな色味のきものを纏(まと)うようになります。一見地味に見える装いですが、裾や裏地などに工夫を凝らして個性を発揮。粋な美意識がモードを生み出してきました。



五美人図 葛飾北斎 1幅 江戸後期 細見美術館蔵

[作品解説]

反物を前に思索する娘を中心に、立場や年齢の異なる5人の女性たちを描く。娘の前の風呂敷包みには「本店」と書かれ、名のある呉服店から好みを伺う品がいくつも届いた様子。新年の晴れ着選びか、婚礼の支度だろう。女性たちはいくつもの三角形を成すように配され、北斎の40代後半の構築的な画風が面白い。「正月品定め図」とも称され、広く親しまれてきた。

第3章 時世粧 (いまようすがた)

異国の行列、遊里、店先、祭事や日常のひとこま—様々な場面に生きる人々の姿を描く風俗画には、往時の空気までもが写されています。

流行の先端もそれ以前の姿も、絵画に託されて今に甦ります。



江戸風俗図巻(部分) 1巻 江戸後期 細見美術館蔵

[作品解説]

江戸後期のさまざまな身分、職業の男女26人を解説を交えながら列記した図巻。戯作者山東京伝の名を記す文化五(1808)年の序文によると、作品の内容はさらに14、5年前(寛政5、6年頃)のもものと判明する。18世紀末の江戸のファッションが階層別に具体的に描かれ、服装史、風俗史などにおいて極めて有用な資料。画家については歌川豊国とする説が近年強い支持を得ている。

— 特別公開 —

日本の色 季節の彩り—吉岡幸雄の仕事—

会場：茶室 古香庵

公開日時：6月20日以降

※Twitter・ホームページをご覧ください。



資料（画像）・取材をご希望の方は、ホームページリリースページもしくは左記QRコード「資料（画像）申込フォーム」からお申込みください。